

県立高等学校の通学区域（学区）に関する意識調査結果

1 調査の趣旨・目的

県立高等学校の通学区域の在り方について，高等学校入学者選抜審議会・学区制検討小委員会における検討の参考とするため，中学生，その保護者，中学校教員，及び一般県民を対象として意向調査を実施した。

2 調査対象及び調査方法

(1) 中学生

県内公立中学校 1・2 年生【抽出調査】

県内公立中学校（224 校）のうち，40 校（8 校 / 地区 × 5 地区）の中学校を任意に抽出し，対象中学校では，1・2 年でそれぞれ任意に 1 学級を抽出し，調査を実施した。

(2) 保護者

(1) の調査対象中学生の保護者【抽出調査】

(3) 中学校

県内全公立中学校（224 校）の進路指導主事【悉皆調査】

(4) 一般県民

調査時点で 20 歳以上 80 歳未満の一般県民【抽出調査】

各地区で，人口及び交通網の状況を踏まえ，中核的位置づけにあると考えられる市，及び各地区内の比較的小規模な市町を抽出した上で，当該市町の選挙人名簿から対象者を無作為に抽出し，実施した。

1 地区 500 人 × 5 地区 = 2,500 人

対象市町

南部地区 ... 白石市・村田町
中部南地区 ... 仙台市（太白区）・亶理町
中部北地区 ... 仙台市（泉区）・大郷町
北部地区 ... 古川市・登米市（旧石越町）
東部地区 ... 石巻市（旧石巻市）・本吉町

各地区内の市町間の
配分は 1 : 1 とする。
(各 250 人)

3 実施時期

(1) 中学生・保護者・中学校...平成 17 年 11 月～12 月

(2) 一般県民...平成 18 年 1 月～2 月

4 調査項目

(1) 高校選択の視点（中学校（進路指導主事）を除く。）

(2) 今後の通学区域の基本方向

(3) 通学区域を拡大する場合の手法（中学生を除く。）

(4) 通学区域を見直す場合の留意点

(5) 遠距離通学についての意見

(6) 通学区域についての自由記述意見（中学生を除く。）

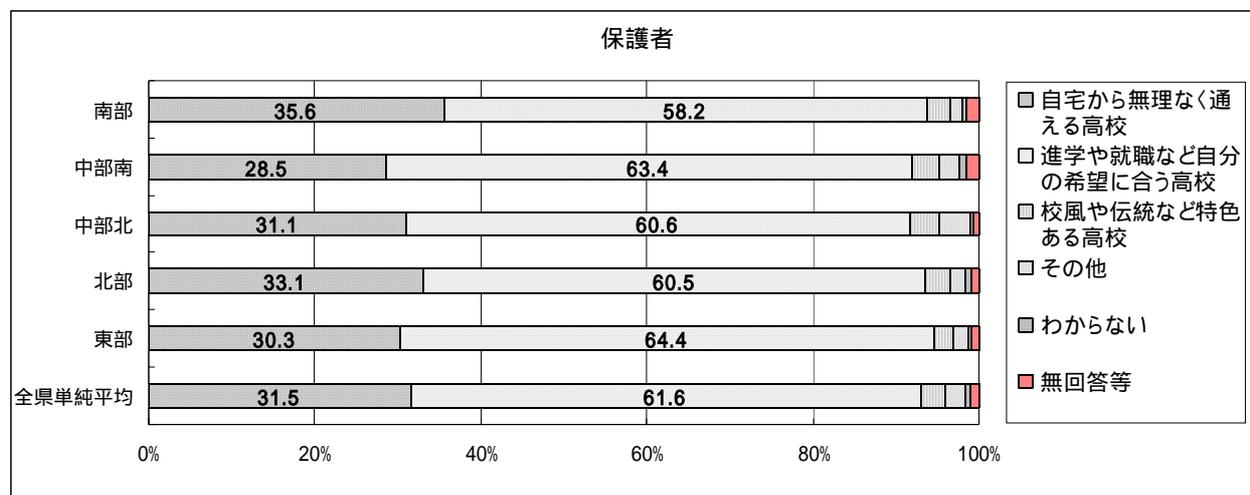
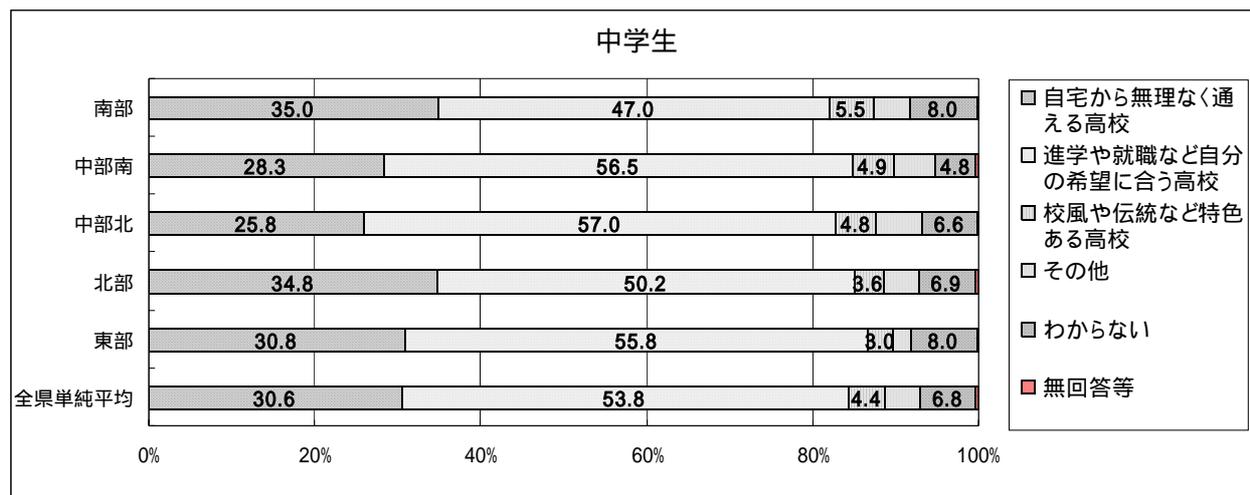
5 回収結果

(1) 中学生	配布数	2,573 人	回収数	2,474 人	回収率	96.2%
(2) 保護者	配布数	2,564 人	回収数	2,069 人	回収率	80.7%
(3) 中学校	配布数	224 校(人)	回収数	224 校(人)	回収率	100.0%
(4) 一般県民	配布数	2,500 人	回収数	901 人	回収率	36.0%

6 調査結果

問1 高校を選択する際にはどのような考え方で選びますか。
次の中から一つを選んでください。(中学生・保護者対象)

- 1 自宅から無理なく通える高校
- 2 進学や就職など自分の希望に合う高校
- 3 校風や伝統など特色ある高校
- 4 その他
- 5 わからない



【全体的傾向】

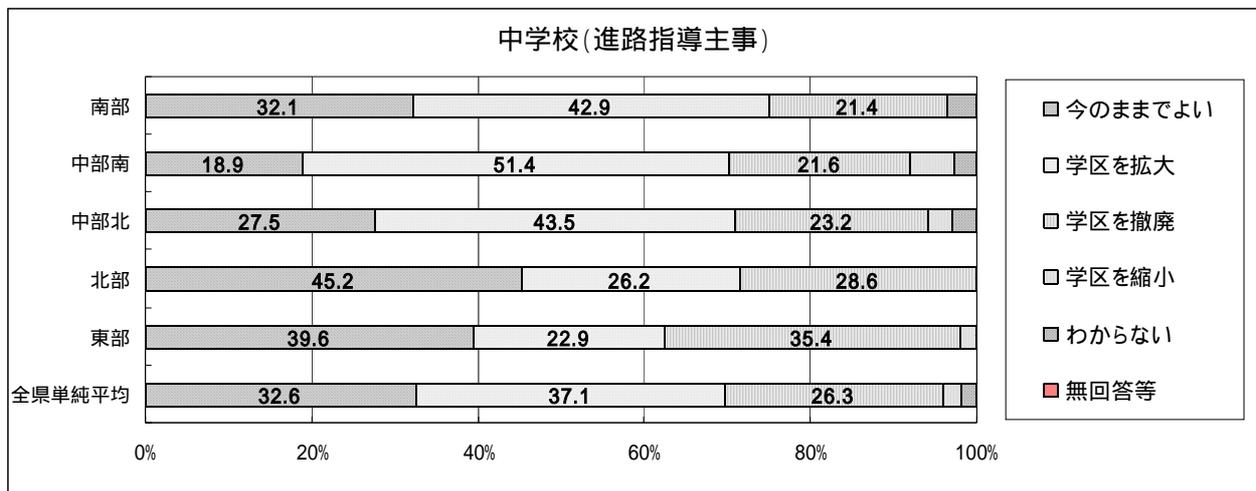
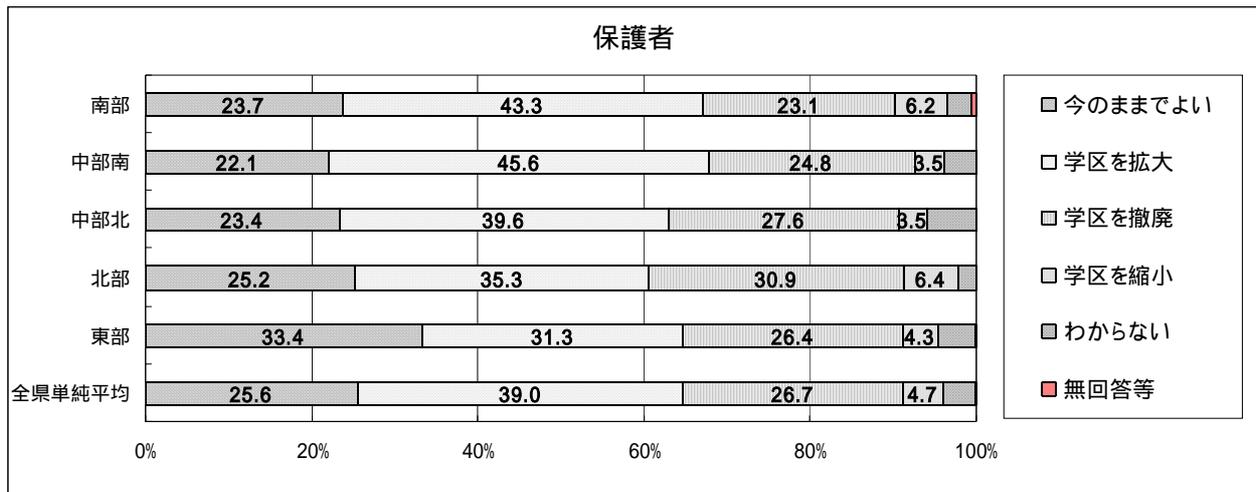
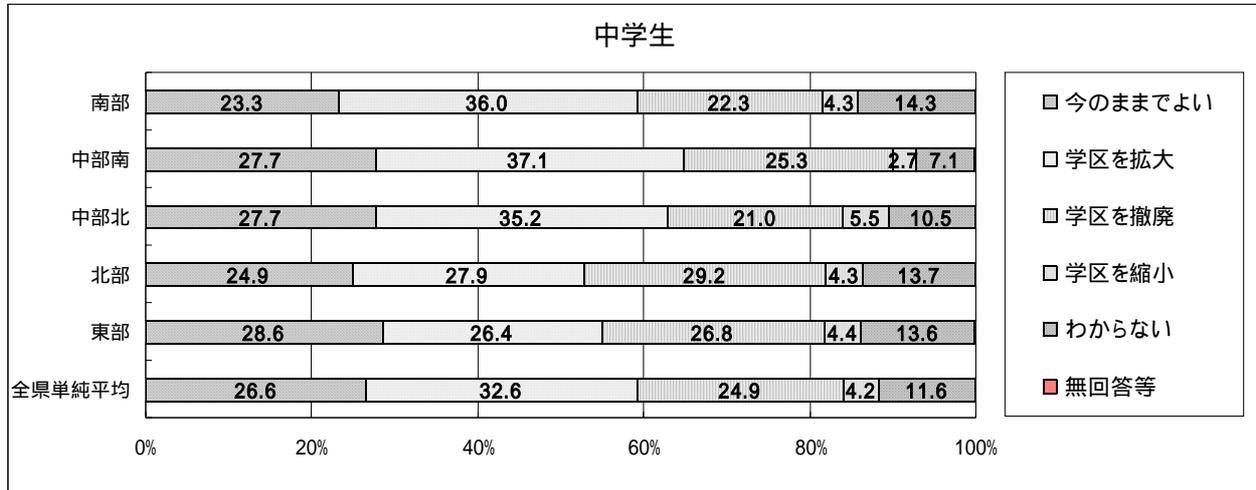
- ・中学生，保護者ともに，「進学や就職など自分の希望に合う高校」の比率が最も高く，過半数を占める。
- ・次いで「自宅から無理なく通える高校」の比率が高く，3割前後を占めている。

【調査対象別・地区別の傾向】

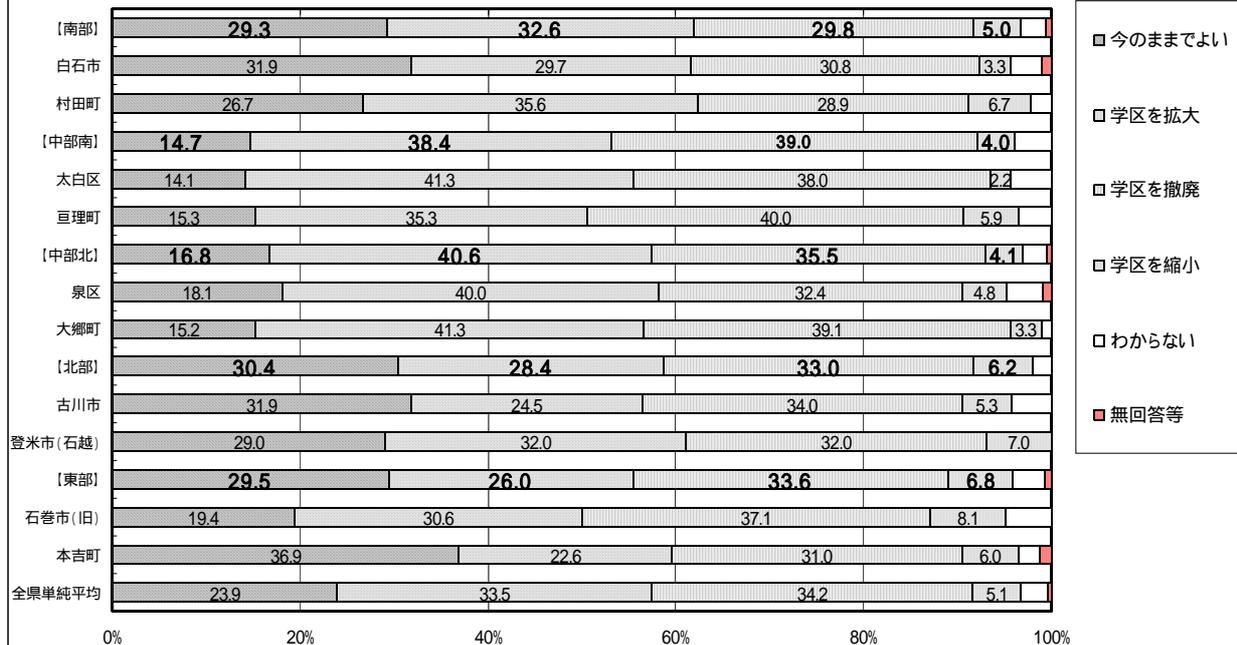
- ・保護者は，中学生に比べ「進学や就職など自分の希望に合う高校」の比率が高い。
- ・中学生では，「進学や就職など自分の希望に合う高校」の比率が，中部南・北地区において高く，これに比べて南部，北部地区においては若干低めである。
- ・保護者では，地区による大きな差異は見られない。

問2 通学区域を今後どのようにしていくべきだと考えますか。
次の中から一つを選んでください。(全対象)

- 1 今のままでよい
- 2 学区を拡大
- 3 学区を撤廃
- 4 学区を縮小
- 5 わからない



一般県民



【全体的傾向】

- ・中学生，保護者及び中学校（進路指導主事）では，「学区を拡大」の比率が最も高い。
- ・一般県民では，「学区を拡大」と「学区を撤廃」の比率が高く，拮抗している。
- ・「学区を拡大」と「学区を撤廃」を合わせた比率は2 / 3程度である。
- ・「今のままでよい」の比率は，中学生，保護者及び一般県民で1 / 4程度，中学校（進路指導主事）で3割程度である。
- ・「学区を縮小」の比率は各対象とも少ない。

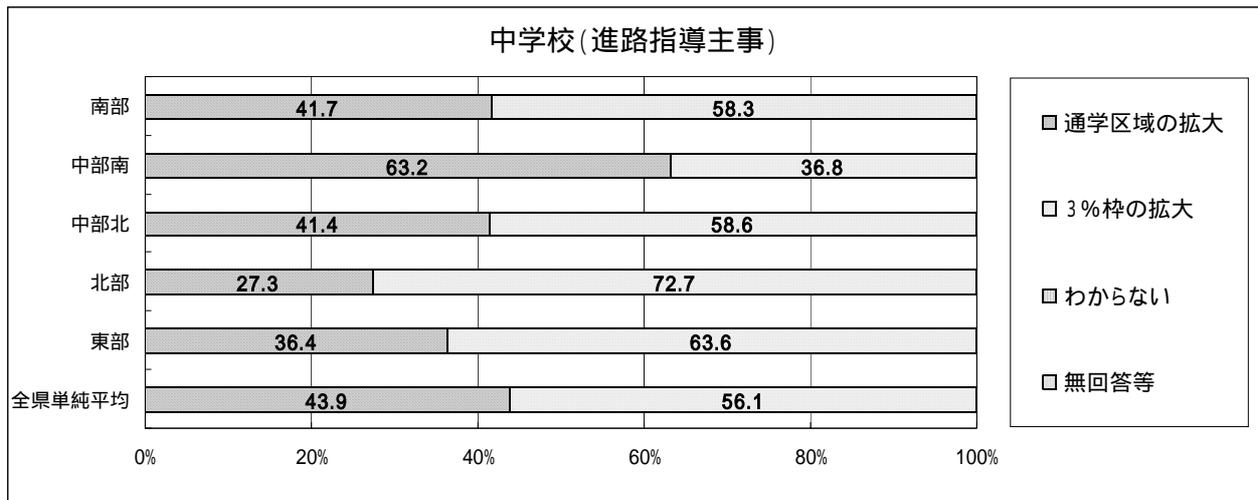
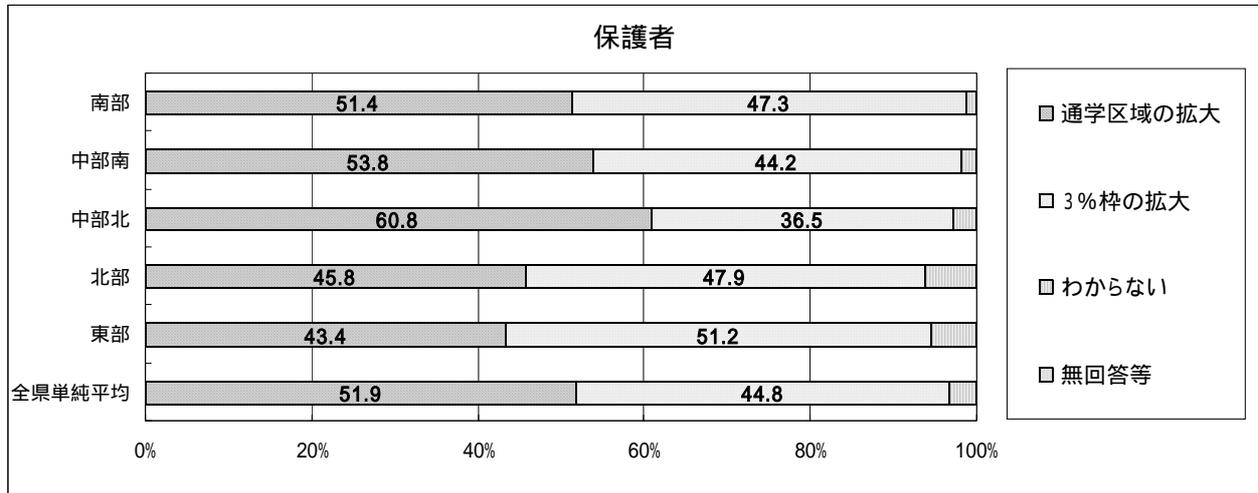
【調査対象別・地区別の傾向】

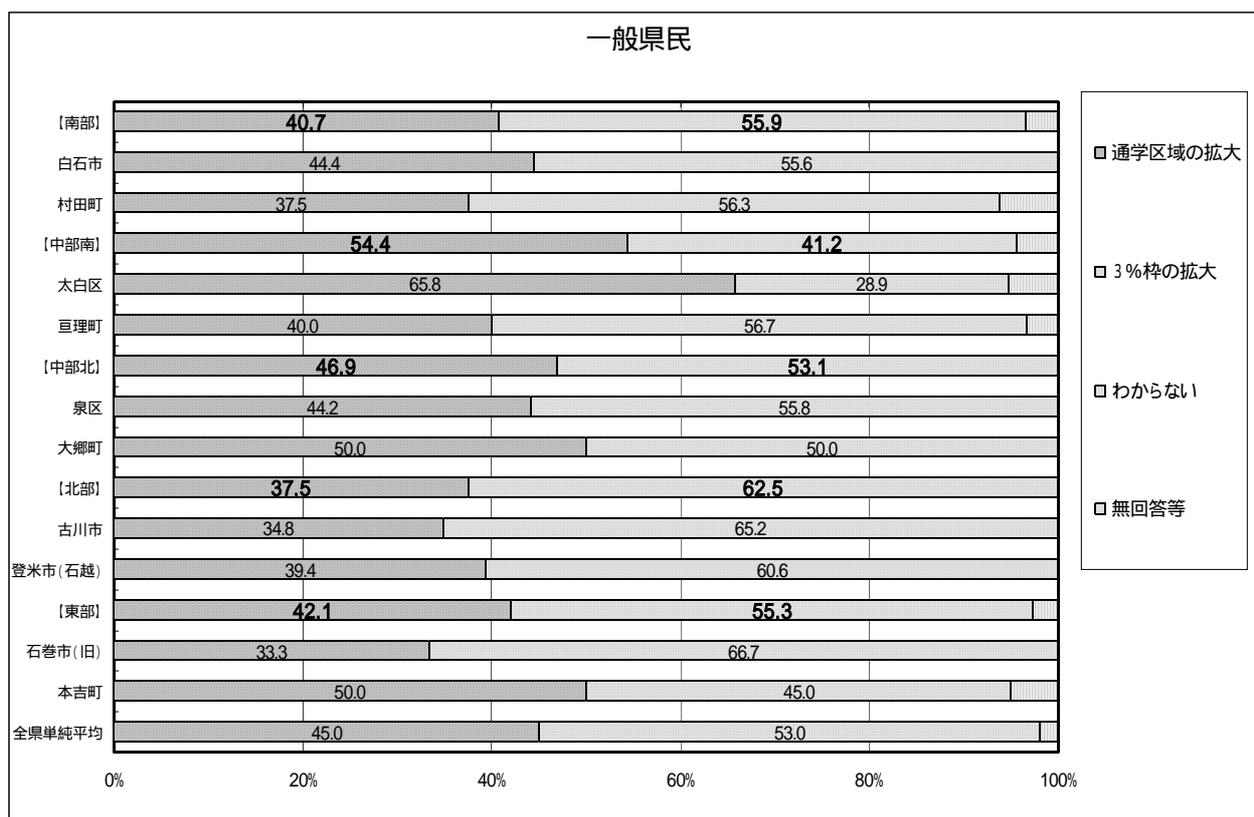
- ・中学生と保護者では，大きな差異は見られない。
中学校（進路指導主事）では，地区によるばらつきが顕著である。
- ・一般県民では，中部南・北地区とそれ以外の地区で傾向が分かれている。
中部南・北地区においては「今のままでよい」が15%前後，「学区を拡大」と「学区を撤廃」を合わせた比率が8割近くを占める。それ以外の地区においては，「今のままでよい」が3割前後，「学区を拡大」と「学区を撤廃」を合わせた比率が6割を占める。
- ・保護者及び中学校（進路指導主事）では，「学区を拡大」と「学区を撤廃」を合わせた比率が6割を占める。
- ・東部地区においては，全体的に「今のままでよい」の比率が高い。

問3 通学区域を拡大する場合，どのような方法が望ましいと考えますか。
次の中から一つを選んでください。

(問2の選択肢2を選択した保護者・中学校・一般県民のみ回答)

- 1 通学区域の拡大
- 2 3%枠の拡大
- 3 わからない





【全体的傾向】

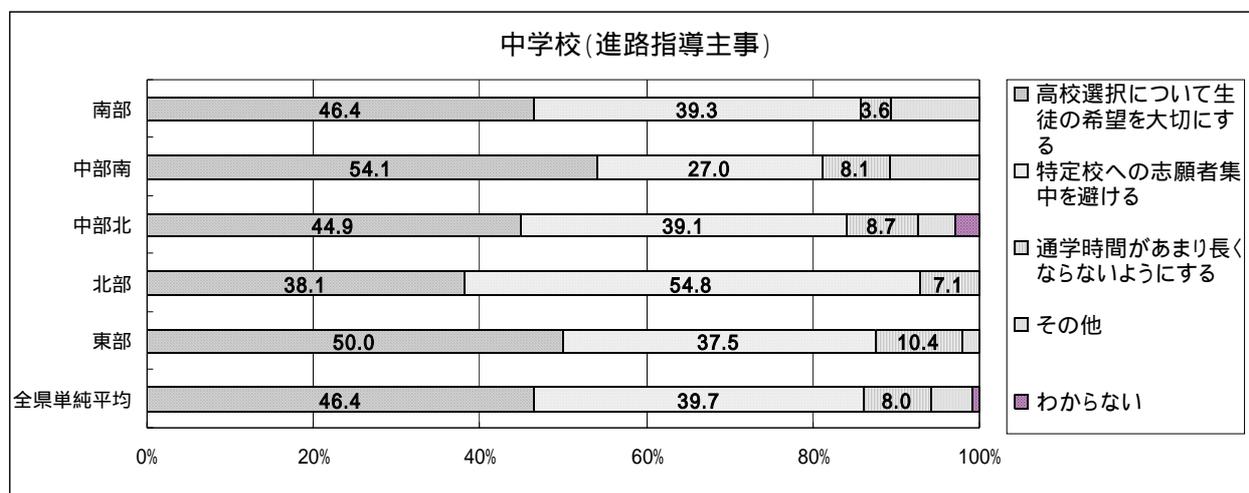
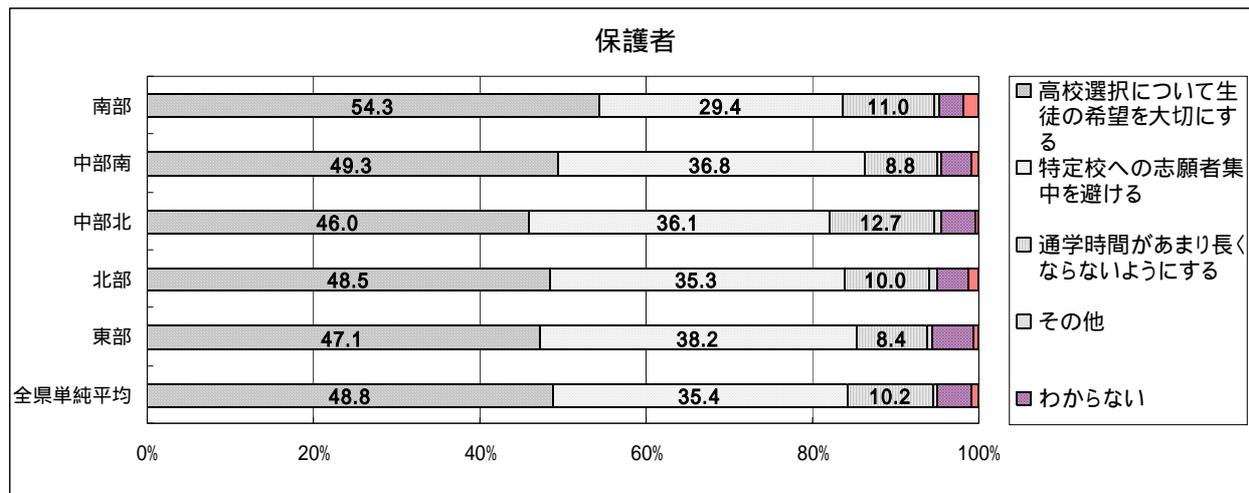
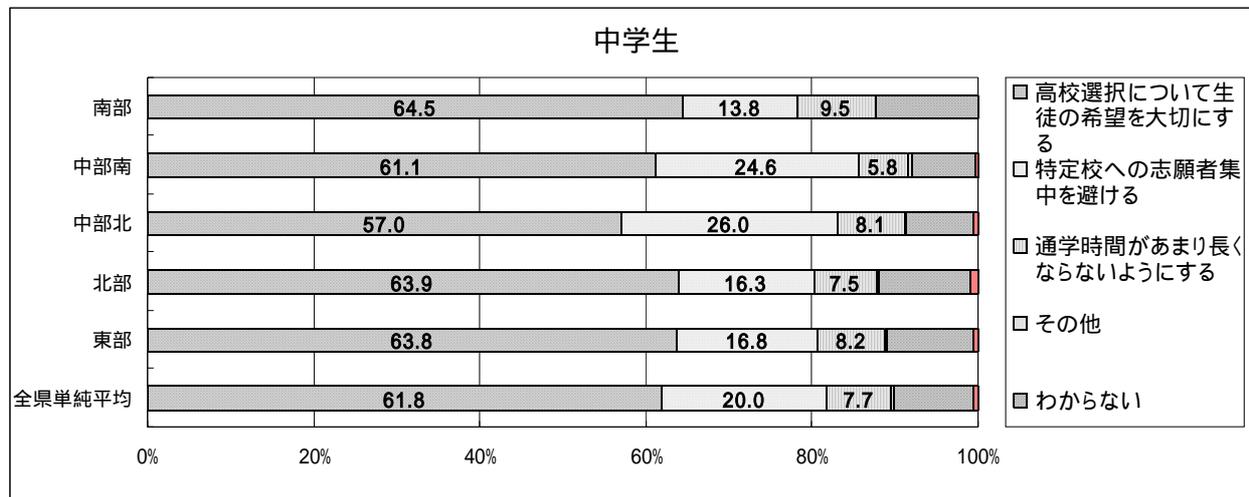
- ・「通学区域の拡大」と「3%枠の拡大」の比率が、全体的にほぼ拮抗している。

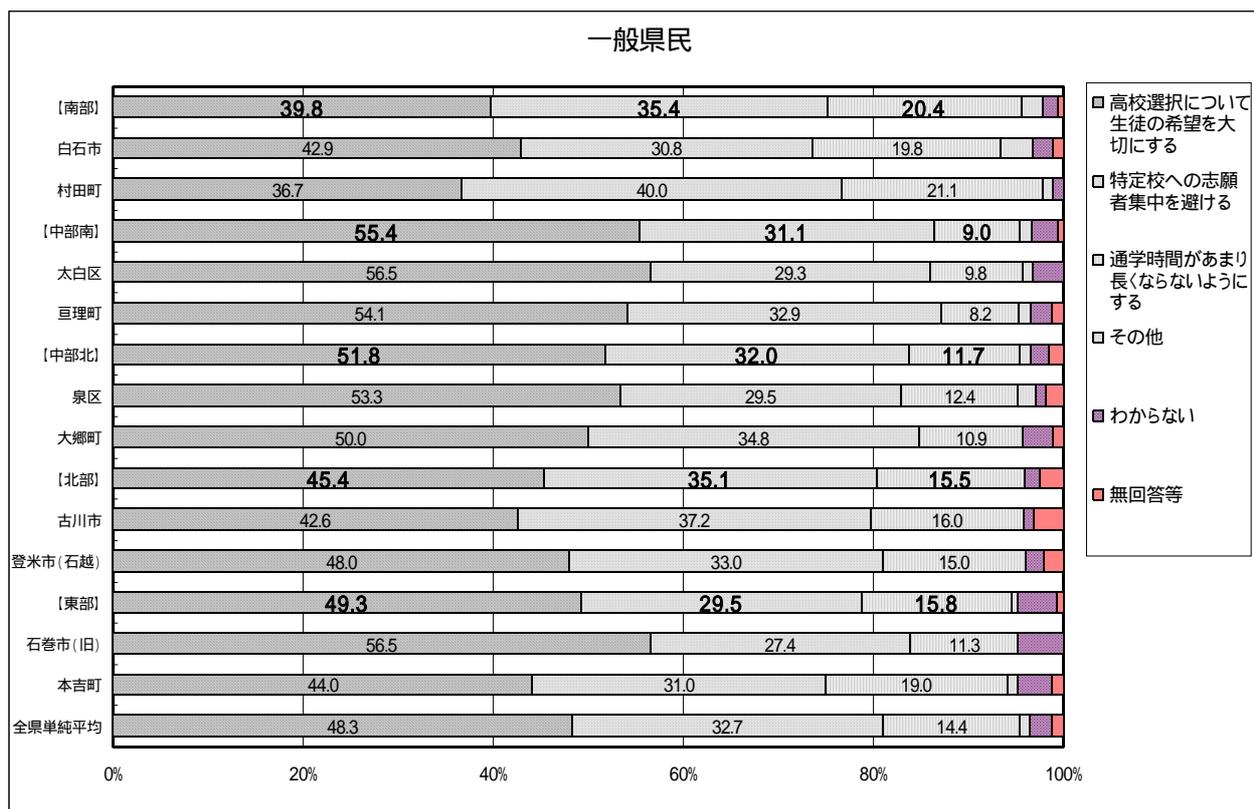
【調査対象別・地区別の傾向】

- ・保護者では、「通学区域の拡大」の比率が最も高く、特に中部南・北地区において「通学区域の拡大」の比率が高い。
- ・中学校（進路指導主事）では、「3%枠の拡大」の比率が高い。特に中部南地区で「通学区域の拡大」の比率が高く、北部地区，東部地区で「3%枠の拡大」の比率が高い。
- ・一般県民では、中部南地区を除き、「3%枠の拡大」の比率が高い。

問4 通学区域の検討に当たってどのようなことに気をつけるべきだと考えますか。
次の中から一つを選んでください。(全対象)

- 1 高校選択について生徒の希望を大切にする
- 2 特定校への志願者集中を避ける
- 3 通学時間があまり長くないようにする
- 4 その他
- 5 わからない





【全体的傾向】

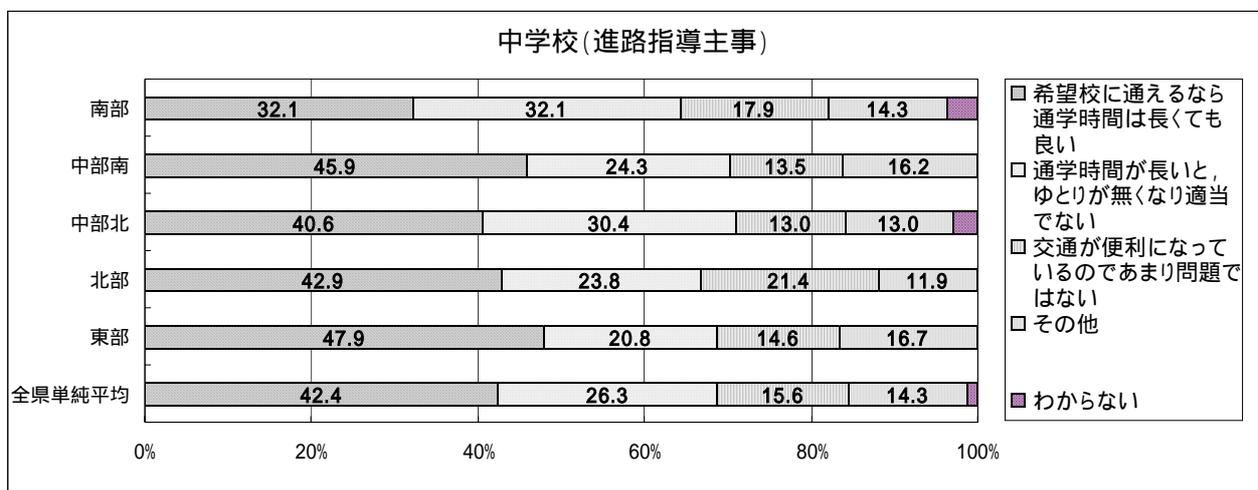
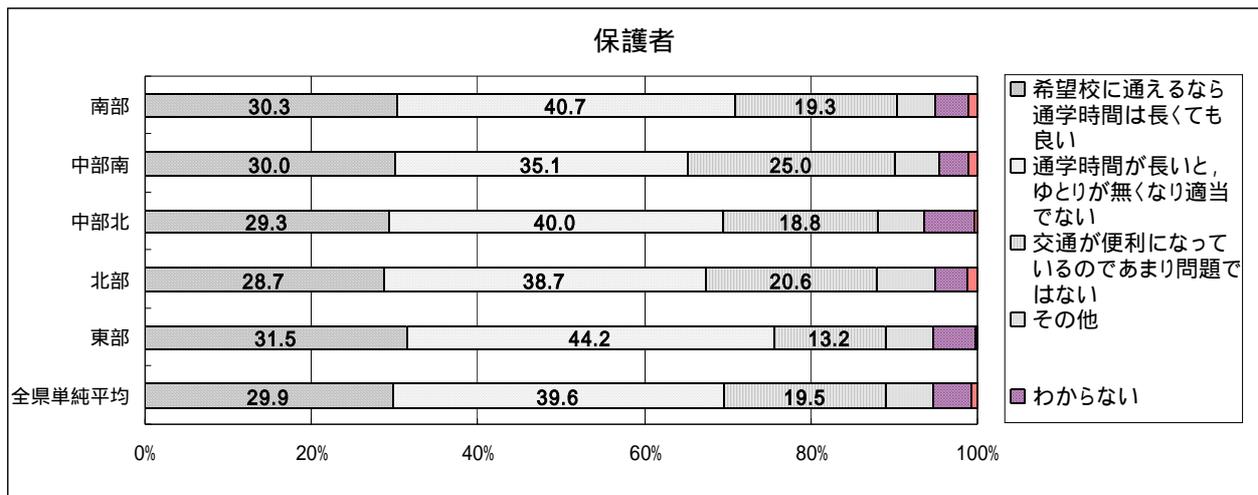
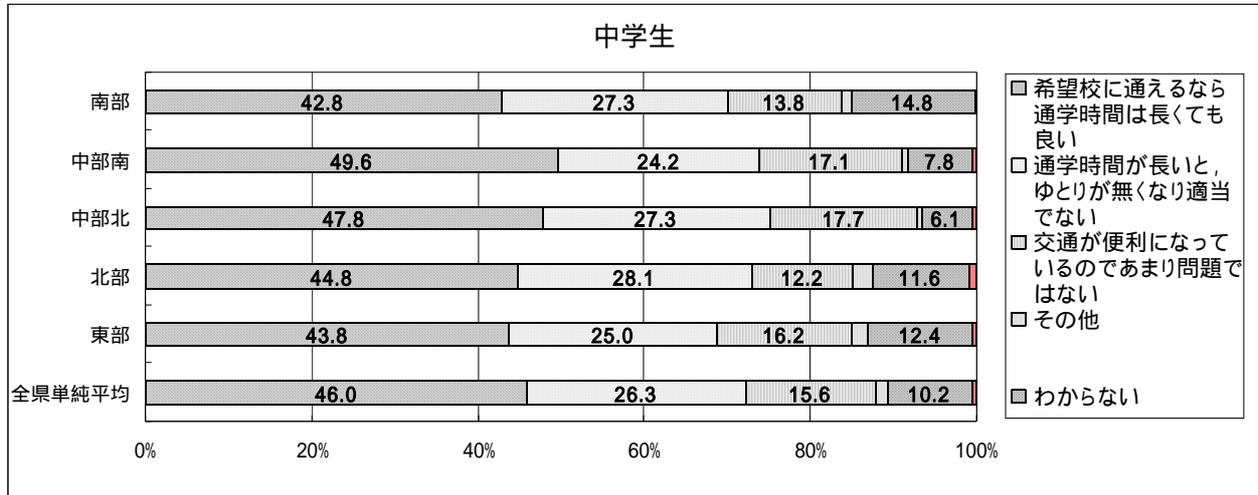
- ・「高校選択について生徒の希望を大切にする」の比率が最も高く、中学生では6割を超え、保護者、中学校（進路指導主事）、一般県民でも5割近くを占める。
- ・「通学時間があまり長くないようにする」は、概ね1割以下である。

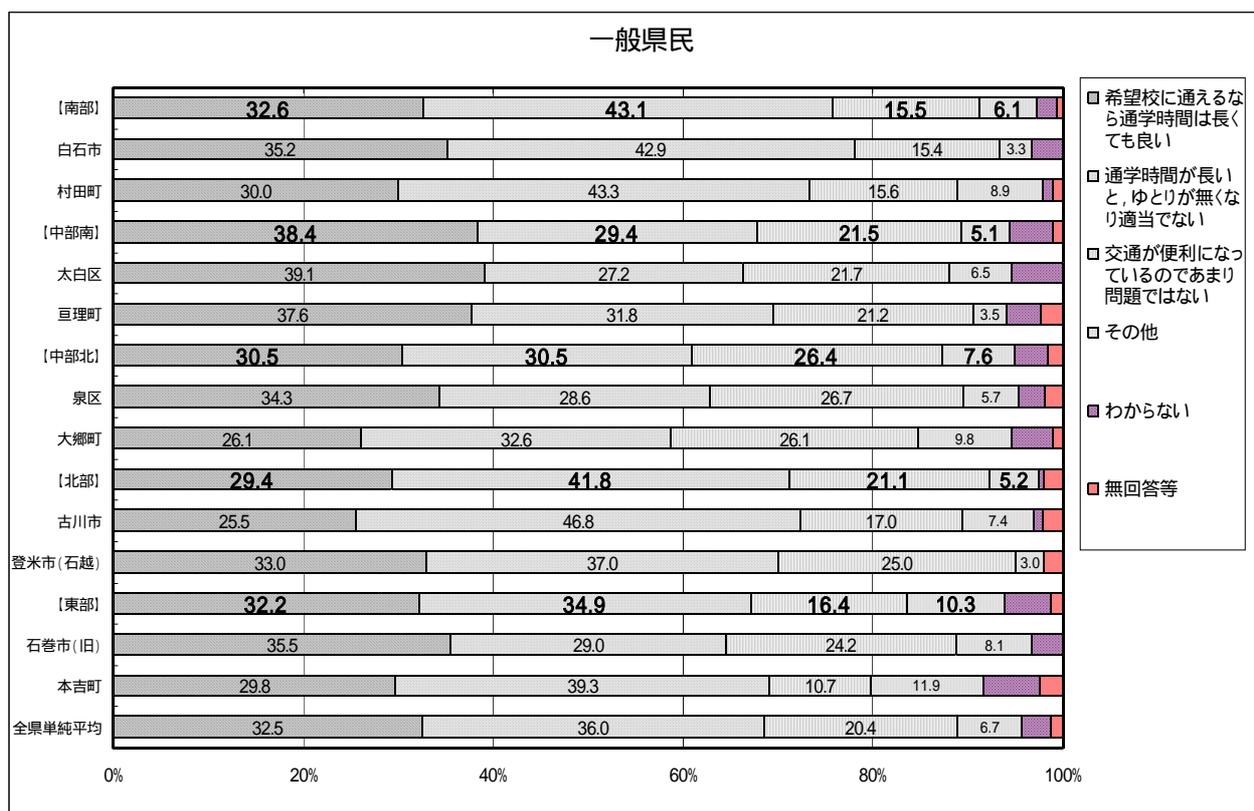
【調査対象別・地区別の傾向】

- ・保護者、中学校（進路指導主事）及び一般県民では、「高校選択について生徒の希望を大切にする」について「特定校への志願者集中を避ける」の比率が高く、保護者及び中学校で概ね4割、一般県民で3割を占める。
- ・中学生及び保護者では、地区による大きな差異は見られない。
- ・中学校（進路指導主事）及び一般県民では、地区によりばらつきが見られ、「特定校への志願者集中を避ける」の比率が、特に北部地区において高い。

問5 他学区の高校に通学する場合，遠距離通学についてどのように考えますか。
次の中から一つを選んでください。(全対象)

- 1 希望校に通えるなら通学時間は長くても良い。
- 2 通学時間が長いと，ゆとりが無くなり適当でない。
- 3 交通が便利になっているのであまり問題ではない。
- 4 その他
- 5 わからない





【全体的傾向】

- ・中学生及び中学校（進路指導主事）では、「希望校に通えるなら通学時間は長くても良い」の比率が最も高く、4割以上を占める。
- ・保護者及び一般県民では、「通学時間が長いとゆとりが無くなり適当でない」の比率が高い。
- ・「希望校に通えるなら通学時間は長くても良い」と「交通が便利になっているのであまり問題ではない」を合わせた回答比率は中学生及び中学校（進路指導主事）でほぼ6割、保護者及び一般県民では5割程度である。

【調査対象別・地区別の傾向】

- ・中学生及び保護者では、地区による大きな差異は見られない。
- ・中学校（進路指導主事）では、地区によりばらつきが見られ、「希望校に通えるなら通学時間は長くても良い」の比率が、特に中部南地区と東部地区において高い。